

.....
題 言
.....

地下鐵道を速成すべきか 道路の舗装を速成すべきか

東京市は十三ヶ年繼續事業として一億八千六百萬圓の巨費を要する地下鐵道建設の案をたてた。

地下鐵道の成速を云ふ事は斯道の先輩や團體に於ても熱心に宣傳されたもので其必要なるは何人も異論のない處であるが、然し之は唯一時的の宣傳に乗すべきものでなく實際市民の生活現狀から慎重に考究されねばならぬ。

現在郊外から市電省電を利用して東京市内に通ふ者が、少しの雨の日でも長靴をかオーバーシューズをかを要し、宅に戻れば足駄を要する、道路が不良なるが故に此の履物丈の市民の一ヶ年の損害額も莫大なものとなる。況んや市内一萬臺の自動車がこの不良道路のため其ガソリンの損失もタイヤの損失丈でも一ヶ年二百萬圓に及ぶと稱される。其他道路の舗装不完全なるが爲めに我々日常生活の微細な點に如何に多くの損害をうけ不安を感じつゝあるかを考へたならば何よりも先第一に完全なる道路舗装を實行しなければならぬ。

市と郊外の町村が不良なる道路に年々投する砂利——それは道路の維持修繕を云ふ名目であつても完全なる舗装道路に對しては殆んど無駄仕事である——の費用のみでも莫大なものである。

地下鐵道が出来ても此等の不良道路より生ずる國家の損害は少しも減ぜられないのである

尤も十三ヶ年も掛つて地下鐵道の出来る頃には道路の舗装工事も大に進む事は思はれるが、地下鐵道に投する丈の餘力があれば先づ第一に完全なる道路舗装の速成に全體の人が共力して努めねばならぬ。

次に今の處では地下鐵道工事をやる丈の技術的の手腕のある人が居ない、設計的の立場から外國の例を見て來た人は澤山にあるが、實地工事に對しては駄目である。若し無理にやれば現在の下水工事も同様な失態を演ずる事と思ふ。

要するに東京市又は府の總てが共力して今は先づ第一に完全な道路の舗装工事に全力を注ぐべきである。完全なる道路工事の市債なれば我々市民は速かに應募するであらう。

ドイツ技師の講演

國歩困難なる事恐らく現在のドイツの如きは他にないと思はれる、それだけ我々はドイツ現在の國民生活に就て注意を拂はねばならぬが、又實際的に學ぶべき事も多くあると思ふ。

過日ドイツの土木技師ベー・ステツシャー氏が日本に來て各地に於てドイツ最近の河海工事に就てと言ふ題で講演されたが要するにラルゼン式の鐵矢板の應用及び工法の宣傳であつた。

鐵矢板の利用は我國の海軍建築部等の工事には古くから使用されてをるが、唯徹底的に其工法に身を入れた人を聞かない。之は鐵矢板のみでなく一般に現場の仕事に身を入れない日本技術家の缺點であつて、何でも新しいものを眞似るが、徹底的に使ひこなす迄に行かない内にもう投げ出して忘れて了ふ。

最近では復興局の河海工事に米國製ラツカワンナーのシートパイルを使用せる事は本誌にも度々紹介した、尙ほ隅田川の相生橋で橋脚工事に鐵矢板をその橋脚として使用せる事も本誌の二月號に紹介した事である。

兎に角政府の一技師がワザ々々外國に出掛けて鐵矢板の宣傳を徹底的にやる處に現在のドイツ國民生活の眞剣さが窺はれると思ふ。官民一致して良きものを良しと宣傳するドイツ技術家の確信は強いものである。